

松戸市まち・ひと・しごと創生懇談会（第10回）開催概要

日 時	令和2年2月10日（月） 10:00～12:00
場 所	松戸市役所 新館5階 市民サロン
出席者	秋田典子、石井久雄、影山貴大、加藤岳、金子敏夫、高橋裕樹、 富永尚次、中村旬治（敬称略）
事務局	松戸市総合政策部政策推進課市政総合研究室

1 「開会」

- 出席者からひとこと
- 事務局の紹介

2 「懇談（松戸市総合戦略等の検証について）」

（1）松戸市総合戦略等の検証について

（2）地方創生をめぐる国・県の動向について

- （1）及び（2）について事務局から一括して説明
 - ・ 最新データで見る松戸市の人口動向(R2.2)（資料1）
 - ・ 総合戦略における数値目標・重要業績評価指標の現状値（資料2）
- 出席者の意見

- ・ 「文化・芸術に親しむ市民の割合」や、「生きがい感を持っている人の割合」、「快適・便利・賑わいがあると感じている人の割合」といった感覚的な指標が減少してしまっている。下がっているのは、なぜだろう。たまたまピックアップした方の感覚というだけなのか、全体的に下がってきているのか、そういうところが重要になると思う。何か市民も巻き込めるような取組み、市民が知らない間に形が出来て執行される取組みだけではなく、うまく市民が巻き込まれて一緒に作っていくような。そういう取り組みがもっと増えていけばいいのかなということが、全般的な感想。
- ・ 目標値と現状値との乖離が大きいものもあるので、そもそも目標値の設定自体に問題があるのか、対策がうまくいってないのか。そこを確認して、次につなげるべきだと思う。例えば、戸定邸の入館者数は増えたが、主要観光スポットの観光客数は、平成30年度は減少している。こうしたKPI間の連動性も含めて、見ていく必要がある。やりやすいこと、やりにくいこと、という点もあると思うので、推進することで効果が出ることはやるべきだと思うし、なかなか成果につながらないことは、軌道

修正をしながら続けていくことが必要である。

- 人口では、社会増が続いているとのことだが、個人的には松戸単体だけではなく、常磐線ラインや東葛地域といった地域全体で、東京や他県からの流入状況をとらえ、近隣市とも連携して人口を増やしていくという視点も必要であると感じる。
- 本市の人口の増加は、転入者が転出者を上回る社会増によるところが大きく、出生数の増加といった自然増によるものではないことが確認できた。
- 昨今では、地域の繋がりが希薄になり、情報取得の手段としてホームページやSNSといったインターネットの比重が大きくなっている。それにより、個人ごとに情報浸透レベルに格差があると感じられる。そうした情報発信の重要性が高まるのは、災害などの非常時。次期総合戦略では、society5.0などの新しい時代に向けた取り組みを、地域との結びつきを大切に情報共有と併せて行うことで、災害に強いまちを目指していければと思う。
- 所属大学で入学時に行うアンケートの結果で、「もう結婚しないと決めている」という回答する割合が、5年前よりも増えてきている。これは、本当にそうすると決めているのではなく、イメージからそう答えていると思われるが、婚姻率にはこうした傾向も影響していると思われる。
- 常磐線沿線のブランディングや連携が大事という話が出たが、個人的には、松戸だけとんがったらいい、差別化をやるならとことんやる。松戸に来れば、何かある、というものがあってもいいのかなと思う。
- 社会参加型の高齢者について。高齢者の豊かさというものの再定義や、社会参加・生涯教育・リカレント教育への支援において、他の都市と差別化できることがあればいいなと思う。
- 市内でも、外国人の方が多く住んでいる地域があり、コミュニティも出来ていると聞く。そうしたことも“新たな松戸”の形になっていくのだと思う。
- 駅前の工事が進められていて、エレベーター・エスカレーターも設置されることで、松戸駅がきれいになっている。伊勢丹の撤退の影響も大きかったと思うが、松戸駅の乗増が増えていくことを期待している。
- 旧伊勢丹周辺の商店街の方も、「人通りが全くなくなったので、一時はどうなるだろうと心配していたが、キテミテマツドの開業により徐々に戻ってきているのを実感している。」という話も聞いている。
- 市と連携する創業支援として、創業塾を開催している。約80人の参加者のうち半数は、東京での開業を希望していた。松戸が東京に近いからだと思う。ネット上での商売であれば、開業地はどこでもいいという事業者も多い。しかし、東京での開業を希望する人は、ステータスにもつながるので、名刺に事業所所在地を東京と記載したいようである。

- ・ 事業所数が増えないと、街の活性化につながらない。製造品出荷額や雇用の問題も解決していかない。
- ・ 製造業や建設業では、日本人、特に市内の人を雇用できればいいが、本当に人が集まらず、労働力不足であるという話をよく聞く。そこで、仕方なく外国に出向いて、あっせん事業者を通さずに、現地のスタッフと調整して、研修生として現場で資格を取らせる教育をしている企業もあるそうだ。
- ・ 出生率など、全国的にみても達成が難しい数値目標や KPI もあるが、全体的には概ね KPI 達成に向けて健闘しているという印象。
- ・ 特に子育て支援に注力していることの評価が、人口増加、若者の転入につながっていると感じる。せつかく増えた人を逃がさないように、他の施策も進めていく必要がある。
- ・ 人口が増えているので、住宅の着工もそれなりにある一方で、事業所数や年間商品販売額は減少している。松戸は、宿場町ということで、商業のまちだったと思うので、もう一度商業をてこ入れして持ち上げることができれば、人口が多くポテンシャルはあるので、もっともっと良くなると日々感じる。
- ・ 個人的には、観光で魅力的なスポットが市内にあるとは思えないので、観光よりも商業のテコ入れに注力した方がよいと思う。
- ・ 住環境の面は非常に良いと思う。常磐線が東京に直通しているため、東京駅まで約 25 分、品川駅まで約 35 分で着く。こんなに便利なところはない。住むまちとしては良い。そこをブラッシュアップしていけば、さらに人口が増えると思う。そうしたポテンシャルはあるけど活かしきれていないところがあると思うので、皆で知恵を出し合って何か組みまなくては、と日々感じる。
- ・ 次期総合戦略では、「結婚しましょう」、「子どもを産みましょう」といったトーンは下がってくると思う。
- ・ 地方創生は、過疎のまちを対象としているものと認識していたので、松戸市が取り組むこと自体に驚きはあった。人口が増えている都市で、まち・ひと・しごと創生戦略として何をすべきか整理することが前提になると思う。
- ・ 生まれる子どもの数が、亡くなる人の数より大きかったので、人口は維持されていたが、これが逆転することで人口が減っている。この傾向が特に強いのが、地方。人口は、そもそも奪い合いをするべきものではない。地方は高齢の方も多く、亡くなる人が多くなるので、人口が減少するのは自然現象。それをどうしようもないという点は、納得する人は多くなっていると思う。
- ・ 流山市は、プロモーションの成果がこんなにも出るのだなど、びっくりするほど、合計特殊出生率は上がっている。ただ、それによるひずみも

生じているのではないかと思う。

- 松戸市が目標にすべきなのは、昼夜間比率を上げることではないか。松戸市の昼夜間比率 80%という数値は、東京に通勤している人が多く、ある意味東京に依存していて、松戸ではちょっとした買い物だけすればいいということの表れだと思う。そういう傾向が顕著になるのは、合計特殊出生率が上昇している流山市だと個人的には思う。合計特殊出生率が上がると、女性が働くことは難しくなり、夫は東京に働きに行き、奥さんは家にいて子育てする、という世帯が増えることになると思うので。
- 柏市の昼夜間比率が 90%であるのは、なるほどと思った。柏市は市内に工場などもたくさんあり、市内で働いている市民も多いと思う。これが、松戸市が柏市に昼夜間比率において水をあけられている違いなのかなと思う。様々な面からみて、昼夜間比率の向上が松戸市にとって一番頑張るところ。そうすれば、松戸で働いて、買い物もして、ということが循環的に行われると思う。
- 市内にも高学歴な外国人の人が多くいる。そうした人たちが働ける職場が必要である。併せて重要になるのは、ダイバーシティの視点。外国人、女性、障害者、高齢者も含めて、皆さんが学び働ける場が増えればよいと思う。
- 安全安心なまちという視点も重要である。犯罪率や交通事故率は、もう少し意識した方がよいかなと思う。
- 霞が関に勤めている人は、松戸に住んでいる人が結構いると聞く。松戸は、都内と比べるとお手頃価格で住める。霞が関にも通いやすい。松戸の地価が上がってしまうと、そういう人たちは出て行ってしまいかもしれない。そのため、路線価を上げるべきか、維持するべきかは、すごく難しくセンシティブな問題であり、検討すべき点。当然、路線価を上げた方がいいのだが、上げることにより、現在増えている 25 歳から 44 歳の人の転入に大きな影響を与えてしまうかもしれない。悩みどころである。
- 松戸市の開業率と廃業率の状況はどうか、関心がある。松戸のポテンシャルからみても、もう少し開業が増えてもいいのではないかと考えているところ。開業率は、昼夜間比率の向上に資するものであり、KPI の設定があってもよいと感じた。
- 工業団地が出来たのは、昭和 40 年前後であり、建替えの時期に来ている。大企業を中心に工場を集約していく動きがあり、拠点を市外に移す企業も出てきている。松戸は立地が比較的良いので、企業が購入したときよりも高く売れることが多いようで、このことも市外移転につながってしまう。企業が移転してしまうと、市内の雇用は失われてしまうため、何らかの対応をしたいところだが、こうした経営判断は自由意志なので、それも難しい。

- ・ 開業より廃業が多いのは事実。業績の悪化というよりも、後継者の不在によるものが最近は多い。「廃業したい」、「M&Aで売却する」といった出口の話を、メインバンクには相談しづらいようである。企業の廃業に向けた動きを早期に把握できれば、他社への事業売却の提案や、後継者を見つけてくるといった手はあるのだが。企業側が廃業を決定した後で知ることになるので、有効な手を打つことができない。金融機関・商工会議所・市などが連携し、事業承継の相談を定期的に行える環境があればいいと思う。
- ・ 松戸での事業者を増やしていくための一つの案として、老朽化していく団地の有効活用。団地をコワーキングスペースとして使うといったアイデアもあると思う。あとは、「東京まで 30 分で行ける」ということをもっとアピールすることが重要。
- ・ 人口などについて、丁寧に現状分析をされていると感じた。こうした分析をすることが、総合戦略の価値なのかなと思う。高齢者を除いての昼夜間比率や、外国人がどのあたりに多く住んでいるのかなどの細かい分析をして、それに基づき次期総合戦略を立てていただければいいと思う。
- ・ 市の計画・戦略に関心を持つ市民の方は少ない。全ての取組みに市民が関わることは出来ないと思うが、知恵や知識、経験をもつ市民の方をうまく巻き込むことで、先ほど話をした「生きがい感を持っている人の割合」といった主観的な指標も向上してくるのかなと思う。
- ・ 市内でのコラボレーションがもっと生まれるといい。既存の知は、地域にたくさんあると思うので、それらが結びつき、コラボレーションが生まれることで、新しい産業も生まれると思う。

3 「事務局からの報告」

○ 事務局から説明

- ・ 懇談会での意見等は、庁内関係部署にフィードバックする。
- ・ 懇談会の資料及び懇談概要を松戸市のホームページに掲載する。

4 「閉会」

以上